

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成21年5月7日(2009.5.7)

【公表番号】特表2008-533161(P2008-533161A)

【公表日】平成20年8月21日(2008.8.21)

【年通号数】公開・登録公報2008-033

【出願番号】特願2008-501998(P2008-501998)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/167 (2006.01)

A 6 1 K 31/4409 (2006.01)

C 0 7 D 213/75 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 31/167

A 6 1 K 31/4409

C 0 7 D 213/75

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/02

A 6 1 P 43/00 1 1 1

【手続補正書】

【提出日】平成21年3月12日(2009.3.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

がんの治療のための医薬の調製における有効量の P P A R のアンタゴニストを含む組成物の使用。

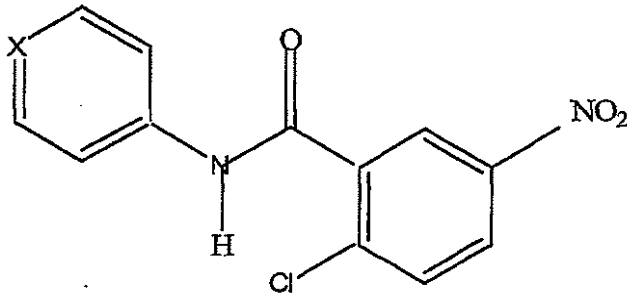
【請求項 2】

前記がんが、膵臓がん、卵巣がん、前立腺がん、腎がん、精巣がん、尿路上皮がん、皮膚がん、黒色腫、大腸がん、腎臓がん、乳がん、脳腫瘍または造血器がんである、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 3】

前記 P P A R のアンタゴニストが、式：

【化 1】



(式中、Xは、CHまたはNである)を有する化合物である、請求項1に記載の使用。

【請求項4】

前記PPARのアンタゴニストが、GW9662である、請求項3に記載の使用。

【請求項5】

前記PPARのアンタゴニストが、T0070907である、請求項3に記載の使用。

【請求項6】

前記がんが、大腸のがんである、請求項1に記載の使用。

【請求項7】

前記がんが、腎臓のがんである、請求項1に記載の使用。

【請求項8】

前記がんが、リンパ腫である、請求項1に記載の使用。

【請求項9】

前記がんが、多発性骨髄腫である、請求項1に記載の使用。

【請求項10】

前記がんが、白血病である、請求項1に記載の使用。

【請求項11】

前記組成物が第2の抗がん剤をさらに含む、請求項1に記載の使用。

【請求項12】

乳がんの治療のための医薬の調製における有効量のT0070907を含む組成物の使用。

【請求項13】

前記組成物が第2の抗がん剤をさらに含む、請求項12に記載の使用。

【請求項14】

前記抗がん剤が、抗体、免疫複合体、抗体-免疫調節剤融合タンパク質、抗体-毒素融合タンパク質、細胞毒性薬、セリン/スレオニンキナーゼ阻害剤、チロシンキナーゼ阻害剤、プロテアソーム阻害剤、サリドマイド類似体、ヒストンデアセチラーゼ阻害剤、シクロオキシゲナーゼ阻害剤、ホルモン、ホルモンアンタゴニスト、アンチセンスオリゴヌクレオチド、干渉RNA、または免疫調節剤である、請求項13に記載の使用。

【請求項15】

前記抗がん剤が、シクロホスファミド、エトポシド、ビンクリスチン、プロカルバジン、カルムスチン、ドキソルビシン、メトトレキサート、ブレオマイシン、またはデキサメタゾンである、請求項13に記載の使用。

【請求項16】

前記抗がん剤が、インターフェロン、リンホカイン、サイトカイン、および増殖因子からなる群から選択される免疫調節剤である、請求項13に記載の使用。

【請求項17】

前記組成物が第3の抗がん剤をさらに含む、請求項13に記載の使用。

【請求項18】

前記第3の抗がん剤が、抗体、免疫複合体、抗体-免疫調節剤融合タンパク質、抗体-

毒素融合タンパク質、細胞毒性薬、セリン/スレオニンキナーゼ阻害剤、チロシンキナーゼ阻害剤、プロテアソーム阻害剤、サリドマイド類似体、ヒストンデアセチラーゼ阻害剤、シクロオキシゲナーゼ阻害剤、ホルモン、ホルモンアンタゴニスト、アンチセンスオリゴヌクレオチド、干渉RNA、および免疫調節剤からなる群から選択される、請求項 1 7に記載の使用。

【請求項 1 9】

前記第 3の抗がん剤が、シクロホスファミド、エトポシド、ビンクリスチン、プロカルバジン、カルムスチン、ドキシルビシン、メトトレキサート、プレオマイシン、およびデキサメタゾンからなる群から選択される、請求項 1 7に記載の使用。

【請求項 2 0】

前記第 3の抗がん剤が、インターフェロン、リンホカイン、サイトカイン、および増殖因子からなる群から選択される免疫調節剤である、請求項 1 7に記載の使用。

【請求項 2 1】

がんの治療のための医薬の調製における GW 9 6 6 2 および T 0 0 7 0 9 0 7 の組み合わせの有効量を含む組成物の使用。

【請求項 2 2】

前記がんが、乳がん、膵臓がん、卵巣がん、前立腺がん、腎がん、精巣がん、尿路上皮がん、皮膚がん、黒色腫、大腸がん、腎臓がん、脳腫瘍および造血器がんからなる群から選択される、請求項 2 1に記載の使用。

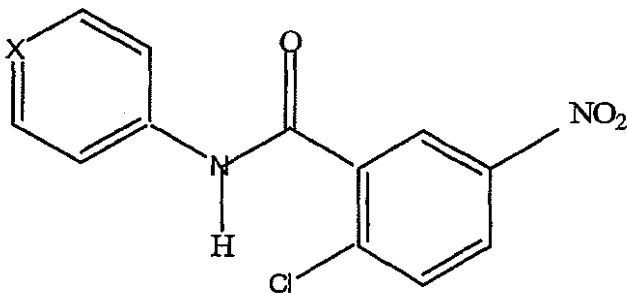
【請求項 2 3】

PPAR のアンタゴニストおよび抗がん剤を含む、対象のがんを治療するための組成物であって、前記がんが、膵臓がん、卵巣がん、前立腺がん、腎がん、精巣がん、尿路上皮がん、皮膚がん、黒色腫、大腸がん、腎臓がん、乳がん、脳腫瘍および造血器がんからなる群から選択される、組成物。

【請求項 2 4】

前記 PPAR のアンタゴニストが、式：

【化 2】



(式中、X は、CH または N である) を有する化合物である、請求項 2 3に記載の組成物。

【請求項 2 5】

前記 PPAR のアンタゴニストが、GW 9 6 6 2 である、請求項 2 4に記載の組成物。

【請求項 2 6】

前記 PPAR のアンタゴニストが、T 0 0 7 0 9 0 7 である、請求項 2 4に記載の組成物。